

平成25・26年度
熊本県教育委員会指定・公益財団法人熊本県学校給食会委嘱
「学校給食・食育」研究推進校研究紀要

研究主題

「健やかな心と体を育てる食育の充実」

～「食」への感謝と生命尊重の心を育み、行動につなぐ実践の創造～



平成26年11月14日（金）

山都町立蘇陽南小学校

はじめに

蘇陽地区には、「知保郷」という言葉があります。これは、日本神話の発祥の地を示しており、蘇陽や高千穂、五ヶ瀬一帯の地域は、神話の郷として古い歴史があります。

また、蘇陽地区は、古来より交通の要所でもあり、かつて日向街道の宿場町として栄え、その面影が今も残り、自然豊かで歴史や文化の薫り高い地域です。蘇陽南小の児童も、自然の豊かさや人々の愛情に生まれ、地域の歴史や文化に触れながら健やかに成長しています。

さて、蘇陽南小学校は、平成24年4月に、馬見原小、菅尾小、大野小の3校が統合して新しい学校として誕生しました。統合したそれぞれの学校には130有余年の歴史と伝統があり、それらを財産として受け継いでいます。そして、新しい学校の歴史の創造に向けて歩みを始め、3年目を迎えているところです。

本校は、「学校給食・食育研究推進校」として、平成25年度・26年度の2カ年間に亘り熊本県教育委員会から研究指定を受けました。研究を進めるにあたって、学校教育目標に掲げた「ふるさとを愛し、心豊かでたくましく、自ら学び考える児童の育成」を踏まえ、研究主題を「健やかな心と体を育てる食育の充実」としました。さらに、めざす児童の姿を明らかにしながら、副題を「『食』への感謝と生命尊重の心を育み、行動につなぐ実践の創造」としました。

「食」に関する学習の推進は、健やかな体を育み、心豊かでたくましい児童の育成につながるものであると考えています。本校の特徴的な実践としては、地域と連携しての地域色豊かな作物の栽培活動があります。体験活動を通してふるさとを見つめ、地域の人々や「食」に関わる人々と出会いも含めて、「食」に関する学びを深め、生命尊重や、感謝の気持ちを高めている児童の姿があります。

本日の研究会では、これまでの研究実践や成果を整理し、発表させていただきます。発表内容には不十分な点が多々あると思いますが、積極的なご意見等をいただくことで、今後の課題を明らかにし、さらに研究を深めたいと考えております。

最後になりましたが、本研究発表会を開催するにあたり、御指導、御支援いただきました関係者の皆様に心より感謝を申し上げまして挨拶といたします。

山都町立蘇陽南小学校 校長 藤吉勇治

目次

はじめに

I 研究の概要

1 研究主題

「健やかな心と体を育てる食育の充実」
～「食」への感謝と生命尊重の心を育み、行動につなぐ実践の創造～

2 主題設定の理由	1
3 研究主題の分析	3
4 研究の仮説	4
5 研究の視点	4
6 研究の組織	4
7 研究の構想	5

II 研究の実際

1 食育のねらいを明確にした取組の工夫

(1) 食に関する指導の全体計画、及び食に関する指導の年間指導計画について	6
(2) 食育の視点を重視した体験活動について	7

2 教科等における食に関する指導の充実について

(1) 教科等における食育の視点を明確にした取組	8
(2) 体験活動と食育との関わりを重視した取組	10
(3) 日常的な指導との関わりを重視した取組	12

3 給食に関する取組の充実

(1) 給食の時間における取組の工夫	13
(2) 環境づくりの工夫	14
(3) 委員会活動を生かした取組の工夫	15

4 家庭・地域との連携について

(1) 老人会との連携	16
(2) PTAとの連携	17
(3) 朝食に関する取組	18
(4) 啓発活動及び条件整備	18

III 研究のまとめ

1 実態調査から	19
2 成果と課題	20

おわりに

参考文献

研究同人

I 研究の概要

1 研究主題

健やかな心と体を育てる食育の充実 ～「食」への感謝と生命尊重の心を育み、行動につなぐ実践の創造～

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

近年、食生活を取り巻く社会環境の変化に伴い、健康に関するさまざまな問題が指摘されている。朝食の欠食、肥満傾向と痩身傾向の二極化、孤食などの食生活の乱れもその一つである。こういった食生活の乱れが、児童生徒の学力、体力低下の一因となっていることは各種調査によって明らかにされている。また、昨今の、食品表示の偽装、残留農薬や放射能の問題など、「食」の安全が脅かされている社会的背景もある。このような「食」を取り巻く諸問題の解決を目指し、食育基本法が制定され、学校現場においても食育に取り組むこととなった。

学校においては、これまでも教育活動として、学校給食を通じた「食」に関する指導を行っている。しかし、「食育」の推進が大きな社会的課題となっている今日、学校における食育をより推進するために、学校給食の教育的意義を改めて見直すとともに、学校の教育活動全体で食に関する指導の充実に努めていくことが求められている。

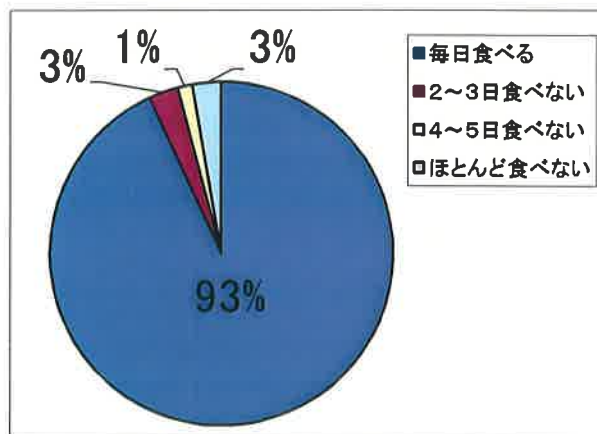
(2) 学校教育目標から

本校の教育目標は「ふるさとを愛し、心豊かでたくましく、自ら学び考える児童の育成」である。「食育」を中心に研究を進める本校の校内研修においては、この教育目標を具現化するために上記の研究主題を設定した。「食」に関する学習の推進は、健やかな心と体を育み、心豊かでたくましい児童の育成につながるものである。特に「食育」の一環である地域色豊かな作物を栽培する活動は、ふるさとに対する愛着の心情を育てるものと考えられる。その栽培過程における各活動では「食」に関する意識を高め、自分たちの「食」に関わる人々や食材、すなわち生命に対する感謝の気持ちを醸成することができる。ここで培われた心情を基盤にし、学んだことを、児童が主体的に表現、発信していく姿は、まさに本校の教育目標にある「自ら学び考える児童」の姿といえる。したがって本研究主題は、本校の教育目標の具現化に資するものである。

(3) 児童、家庭の実態から

一昨年度、蘇陽地区の大野小、菅尾小、馬見原小の三校が統合してスタートしたのが本校である。本校区は四方を山林に囲まれており、農林業が基幹産業で、米、野菜などの栽培や酪農が盛んな地域といえる。本校児童の家庭にも、農業、酪農に従事しているところが多く、食材の生産に関わる人々の様子を目にする機会にも恵まれている。

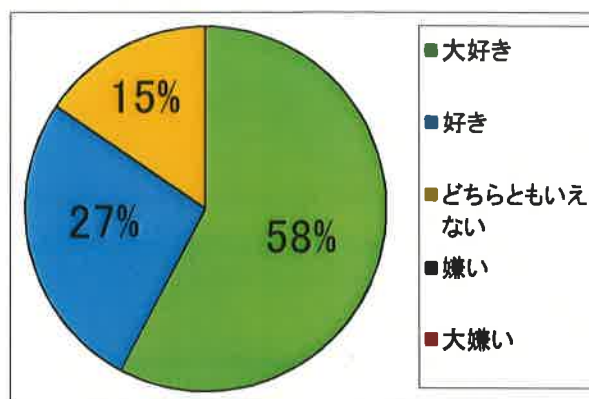
昨年度当初、児童と保護者に対して行ったアンケートの結果をみると朝食摂取の状況については、9割以上



H25 児童の朝食摂取の状況

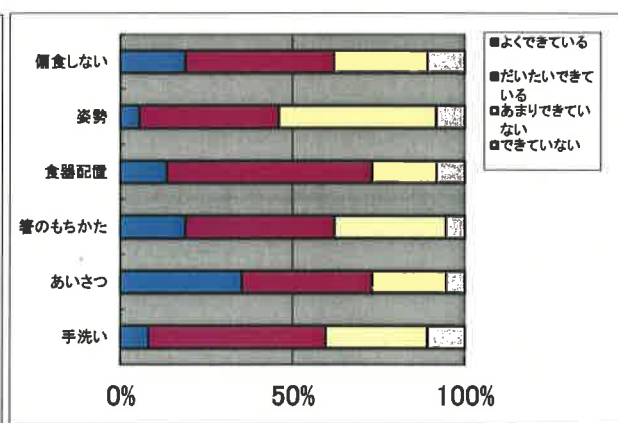
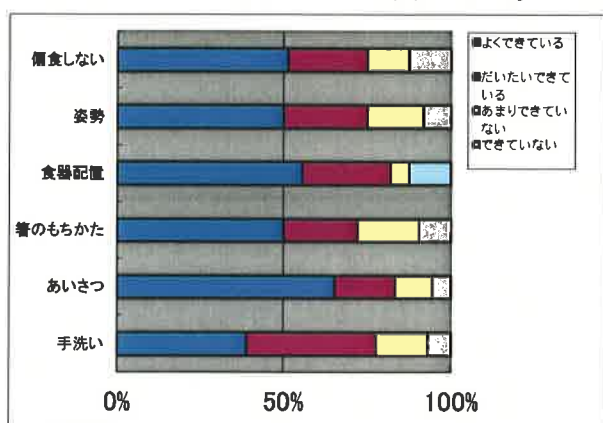
の児童が「毎日食べている」という結果だった。これは概ね良好な結果といえるが、朝食を「ほとんど食べない」と答える児童も1、2名おり、その理由としては「時間がない」、「食欲がない」といったものが挙げられていた。

また、給食に関しては、「嫌い」と答える児童はおらず、給食に対して好印象を持っていることが分かった。その理由としては、「おいしさ」や「会食の楽しさ」の他に「栄養バランスの良さ」、「食材の豊富さ」が挙げられており、食に関する関心の高さが感じられた。しかし偏食や食の細さから、給食を残してしまう児童もあり、食に関する指導の更なる充実が必要である。



H25 児童の学校給食に対する印象

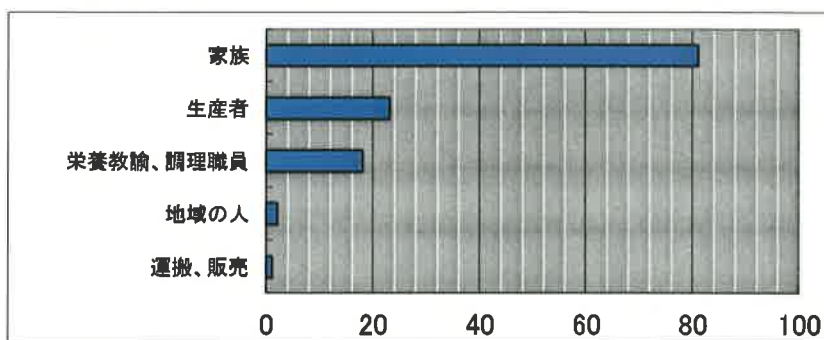
家庭での食事のマナー面に関しては、児童と保護者の意識に大きな隔たりがある。児童ができていると思っても、保護者から見ると不十分な点が多いと考えられる。給食中の様子からも、児童が思っている以上に、食事の姿勢や箸の持ち方などマナー面の課題は大きいことが分かる。給食指導の工夫など、課題解決のための手立てが必要である。



H25 食事のマナーに関する意識 (児童)

H25 食事のマナーに関する意識 (保護者)

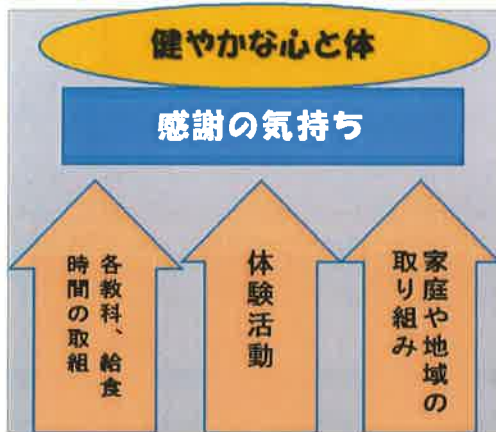
児童の「食」に対する感謝の気持ちについて調べるため、「食事ができるのは誰のおかげか」という問いに対しては、児童の多くが、父母や祖父母を挙げていた。農業や漁業に関わっている方や栄養教諭、調理職員を挙げた児童は3分の1程度であった。本研究によって児童の感謝の気持ちを更に深め、広げていく取組みを進めていかなければならない。



H25 食事ができるのは誰のおかげか

3 研究主題の分析

「健やかな心と体」とは



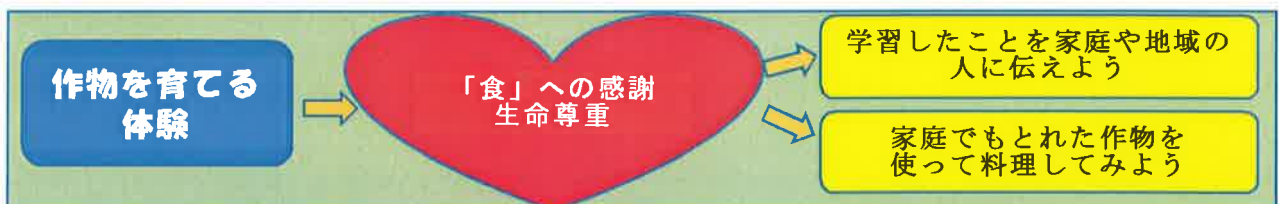
「健やかな心」とは、家族、食材の生産者や調理をされる方、また食材そのものに対する感謝の気持ちを育むことにより醸成される他人を思いやる心情である。また「健やかな体」とは、偏食をなくし、バランスの良い食事をとることにより育まれる健康な体のことである。給食の時間や教科等における取組、体験活動及び家庭、地域と連携した食に関する取組を充実させ、感謝の気持ちを育てることにより「健やかな心と体」の育成を目指していく。

『食』への感謝と生命尊重の心とは

『食』への感謝と生命尊重の心とは、「食」に関わる全ての人々への感謝や、食材への感謝の心を基盤とした生命を慈しむ心情と捉える。このことを育成するために、地域色豊かな作物を栽培する活動は非常に有効である。その栽培過程における各活動では、「食」に関する意識を高め、自分たちの「食」に関わる人々や食材、すなわち生命に対する感謝の気持ちを育成することができるものとする。

「行動につなぐ」とは

「行動につなぐ」とは、取組によって培われた心情をもとに、児童が学んだ知識や情報を主体的に表現、発信しようとする姿を目指すことである。この姿は、全ての教育活動において求めていくものである。



主題の具現化に向けて、目指す児童像を以下のように設定した。

低学年

- 食事を作ってくれる人に感謝をし、心をこめて「いただきます」、「ごちそうさま」を言うことができる。
- 友達と協力して、準備、後片付けをし、仲よく食べることができる。
- 苦手な食べ物でも食べようとする。

中学年

- 生産者や自然の恵みに感謝しながら、食べることができる。
- 食事のマナーを考えながら、楽しく給食を食べるためにみんなで協力して、工夫することができる。
- 苦手な食べ物でも、残さず食べようとする。

高学年

- 食事にかかわる多くの人々や自然の恵みに感謝し、残さず食べることができる。
- 食事を通して、相手を思いやる気持ちを持つことができる。
- 食品をバランスよく組み合わせる食べようとする。

4 研究の仮説

仮説 1

さまざまな体験活動において、地域の方や家族と協力しながら児童が主体的に活動する機会を設定することにより、「食」への関心が高まり、「食」に対して感謝の気持ちを持つ児童が育成できるであろう。

「食」と関連付けた授業の展開を工夫し、地域の方や保護者と協力しながら体験活動を行うことで、児童は「食」を通して、自分たちのふるさつを見つめることができる。「食」という視点からふるさつの良さを学ぶことで「食」への関心が高まり、感謝の気持ちを育てることができると考えられる。また児童の「食」への関心、感謝の気持ちの高まりは、主体的な表現活動や情報の発信へとつながっていく。

仮説 2

給食の時間や教科等において、計画的、継続的に「食」に関する指導を進めていけば、習得したことを日々の食事の中で積極的に生かそうとする児童が育成できるであろう。

毎日の給食は、全ての児童が同じものを食べ、「食」と直接向き合う時間である。学校給食を「生きた教材」として、各教科等と関連付け、計画的、継続的な指導を充実させていけば、「食」に関わる人、もの、事柄に対する関心が高まる。この学習を進めることで、児童が「食」に対する感謝の気持ちを育み、正しい知識や望ましい食習慣を身に付けることができる。

5 研究の視点

仮説を検証していくために、以下の視点で取組を進めることとした。

視点 1：体験活動を生かした授業作り

- 「食」に関する指導の年間指導計画の見直しと活用
- 地域の人材、栄養教諭の活用
- 体験活動と関連付けた取組の工夫
- 「食」に視点をあてた保健指導

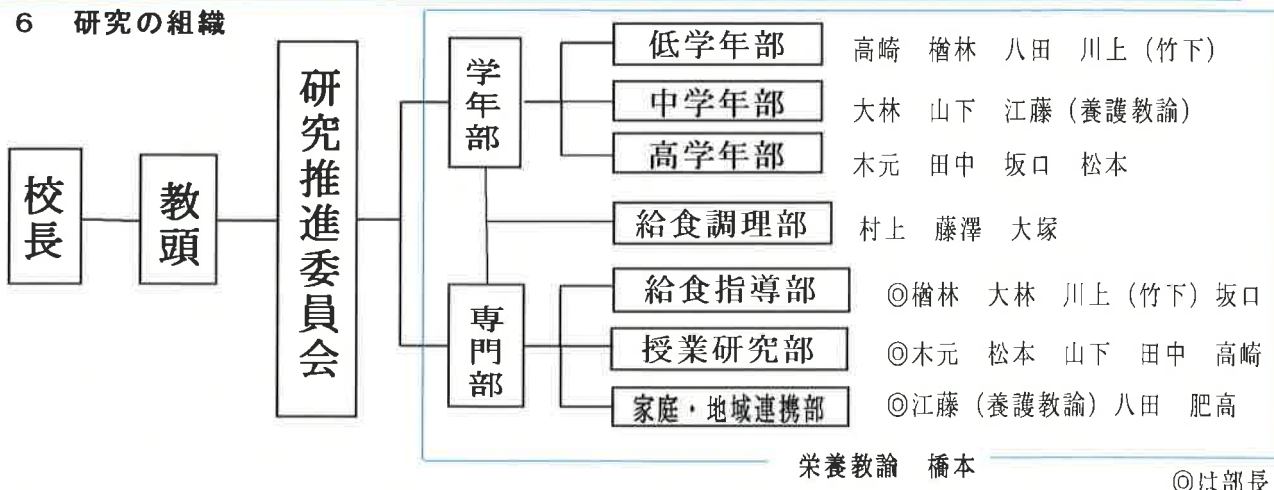
視点 2：給食の時間を軸にした取組

- 給食指導の充実
- 環境づくりの工夫
- 給食委員会の活動推進

視点 3：家庭との連携・啓発

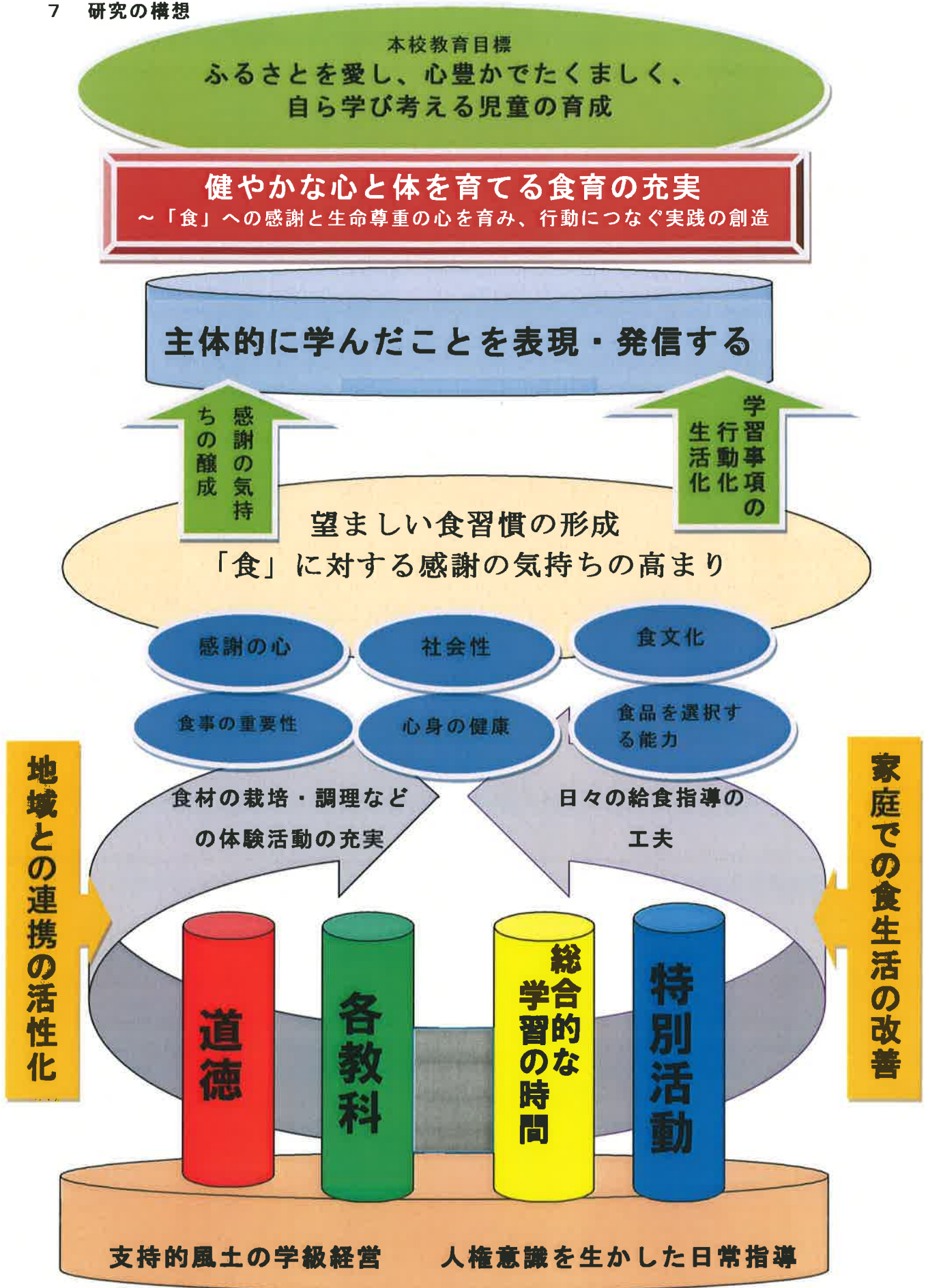
- 学校行事における保護者の協力
- P T A が主体となる取組

6 研究の組織



※研究推進委員会は、校長、教頭、教務主任、研究主任、専門部長で構成

7 研究の構想



II 研究の実践

1 食育のねらいを明確にした取組の工夫

(1) 食に関する指導の全体計画及び食に関する指導の年間指導計画について

より効果的に食に関する指導が行われるように、食に関する指導の全体計画を見直した。特に学級活動や給食の時間に行う食に関する指導について、より具体的なものとなるように、3ヶ月毎に実践項目を設けた。(一部掲載)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
14 別 活 動	○学級活動及び給食の時間	○給食の約束、歯を大切に ○給食を知ろう ●仲良く食べよう	○給食の約束、歯を大切に ○食品について知ろう ●楽しい雰囲気食べよう	○給食の約束、歯を大切に ○食品について知ろう ●楽しい雰囲気食べよう	○夏休みの健康 ○食べ物の名前を知ろう ●楽しく食べよう	○夏休みの健康、運動と健康 ○食べ物の働きを知ろう ●食事の環境について考えよう	○夏休みの健康、運動と健康 ○季節の食べ物について知ろう ●食事の環境について考えよう	○風邪の予防と生活習慣 ○食べ物に関心を持とう ●好き嫌いをせずに食べよう	○風邪の予防と健康な生活習慣 ○食べ物の3つの働きを知ろう ●食べものを大切にしよう	○風邪の予防と健康な生活習慣 ○食べ物と健康について知ろう ●食べものを大切にしよう	○給食に感謝して食べよう ○食べ物について振り返ろう ●給食の反省をしよう	○給食に感謝して食べよう ○食生活について考えよう ●給食の反省をしよう	○給食に感謝して食べよう ○食生活について考えよう ●1年間の給食を振り返ろう	○給食に感謝して食べよう ○食生活について考えよう ●1年間の給食を振り返ろう
	○給食指導	○安全に夏を過ごす給食指導、きき書を作成 ○食べ物の働きについて知ろう ●楽しい給食時間をつくろう	○安全に夏を過ごす給食指導、きき書を作成 ○食べ物の働きについて知ろう ●楽しい給食時間をつくろう	○安全に夏を過ごす給食指導、きき書を作成 ○食べ物の働きについて知ろう ●楽しい給食時間をつくろう	○夏休みの健康、運動と健康 ○季節の食べ物について知ろう ●食事の環境について考えよう	○夏休みの健康、運動と健康 ○季節の食べ物について知ろう ●食事の環境について考えよう	○夏休みの健康、運動と健康 ○季節の食べ物について知ろう ●食事の環境について考えよう	○風邪の予防と生活習慣 ○食べ物に関心を持とう ●好き嫌いをせずに食べよう	○風邪の予防と健康な生活習慣 ○食べ物の3つの働きを知ろう ●食べものを大切にしよう	○風邪の予防と健康な生活習慣 ○食べ物と健康について知ろう ●食べものを大切にしよう	○給食に感謝して食べよう ○食べ物について振り返ろう ●給食の反省をしよう	○給食に感謝して食べよう ○食生活について考えよう ●給食の反省をしよう	○給食に感謝して食べよう ○食生活について考えよう ●1年間の給食を振り返ろう	○給食に感謝して食べよう ○食生活について考えよう ●1年間の給食を振り返ろう
	○給食指導	○安全に夏を過ごす給食指導、きき書を作成 ○食べ物の働きについて知ろう ●楽しい給食時間をつくろう	○安全に夏を過ごす給食指導、きき書を作成 ○食べ物の働きについて知ろう ●楽しい給食時間をつくろう	○安全に夏を過ごす給食指導、きき書を作成 ○食べ物の働きについて知ろう ●楽しい給食時間をつくろう	○夏休みの健康、運動と健康 ○季節の食べ物について知ろう ●食事の環境について考えよう	○夏休みの健康、運動と健康 ○季節の食べ物について知ろう ●食事の環境について考えよう	○夏休みの健康、運動と健康 ○季節の食べ物について知ろう ●食事の環境について考えよう	○風邪の予防と生活習慣 ○食べ物に関心を持とう ●好き嫌いをせずに食べよう	○風邪の予防と健康な生活習慣 ○食べ物の3つの働きを知ろう ●食べものを大切にしよう	○風邪の予防と健康な生活習慣 ○食べ物と健康について知ろう ●食べものを大切にしよう	○給食に感謝して食べよう ○食べ物について振り返ろう ●給食の反省をしよう	○給食に感謝して食べよう ○食生活について考えよう ●給食の反省をしよう	○給食に感謝して食べよう ○食生活について考えよう ●1年間の給食を振り返ろう	○給食に感謝して食べよう ○食生活について考えよう ●1年間の給食を振り返ろう
全校一斉指導等	○じょうぶな歯をつくらう ○お見知り給食会、交流給食会	○じょうぶな歯をつくらう ○お見知り給食会、交流給食会	○じょうぶな歯をつくらう ○お見知り給食会、交流給食会	●親子給食試食会(1,2年)	●親子給食試食会(1,2年)	●親子給食試食会(1,2年)	●お楽しみランチ、セレクト給食 ○主食の大切さを考えよう ●親子給食試食会(5,6年) ●ふれあい交流ランチ(老人会)	●お楽しみランチ、セレクト給食 ○主食の大切さを考えよう ●親子給食試食会(5,6年) ●ふれあい交流ランチ(老人会)	●お楽しみランチ、セレクト給食 ○主食の大切さを考えよう ●親子給食試食会(5,6年) ●ふれあい交流ランチ(老人会)	●お楽しみランチ、セレクト給食 ○主食の大切さを考えよう ●親子給食試食会(5,6年) ●ふれあい交流ランチ(老人会)	●お楽しみランチ、セレクト給食 ○主食の大切さを考えよう ●親子給食試食会(5,6年) ●ふれあい交流ランチ(老人会)	●お楽しみランチ、セレクト給食 ○主食の大切さを考えよう ●親子給食試食会(5,6年) ●ふれあい交流ランチ(老人会)	●お楽しみランチ、セレクト給食 ○主食の大切さを考えよう ●親子給食試食会(5,6年) ●ふれあい交流ランチ(老人会)	
学校行事	・残育測定・遠足・宿泊学習 ・歯と口の健康週間・修学旅行	・残育測定・遠足・宿泊学習 ・歯と口の健康週間・修学旅行	・残育測定・遠足・宿泊学習 ・歯と口の健康週間・修学旅行	・夏休み ・運動会	・夏休み ・運動会	・夏休み ・運動会	・見学旅行・食育研究発表会 ・避難訓練	・見学旅行・食育研究発表会 ・避難訓練	・見学旅行・食育研究発表会 ・避難訓練	・見学旅行・食育研究発表会 ・避難訓練	・給食週間・スポーツ教室 ・学習発表会・遠足	・給食週間・スポーツ教室 ・学習発表会・遠足	・給食週間・スポーツ教室 ・学習発表会・遠足	
児童会活動	・児童会総会・人権集会 ・縦割り班編制・茶摘み	・児童会総会・人権集会 ・縦割り班編制・茶摘み	・児童会総会・人権集会 ・縦割り班編制・茶摘み				・人権集会	・人権集会	・人権集会	・人権集会	・児童会選挙 ・学習発表会	・児童会選挙 ・学習発表会	・児童会選挙 ・学習発表会	

また、この食に関する指導の全体計画をもとに作成される各学年の食に関する指導の年間指導計画についても、より実践に即したものになるよう見直した。各教科等で食と関わりのある学習を洗い出し、食に関する6つの指導目標の中でどの目標に近づくための学習なのかを計画の中に明記した。給食の時間における食に関する指導については、全体計画をもとに、学年に応じた指導を月ごとに行うようにした。また、栄養教諭と連絡を取り合い、旬の食材、地場産物、児童が体験活動で育てた作物を給食献立に生かせるように書き入れた。見直した指導計画をもとに、授業等と体験活動を結びつけながら学習を進めていった。

関連する食に関する指導の内容
食事の重要性(重) 心身の健康(健)
食品を選択する能力(選)
感謝の心(感) 社会性(社)
食文化(文)
を明記

給食の時間の、食に関する指導
と給食指導を見直し

旬の食材、地場産物について
見直し

学校で栽培された作物を記述(体験活動と給食の結びつきの強化)

		4月	5月	6月	7月
特別活動	社会			粘作りが盛んな端午の節句(文・道)	水風流が盛んな仲夏祭(文・道)
	理科	夏物の給食・献立(道)			
	家庭科	クッキングはじめの一歩(道)	1日7野菜のサラダを作る(道・道)		
	体育	心の健康(道)			
	道徳	感謝を見出す(徳・道)			
	総合的な学習の時間	栽培活動(もち米)・収穫・調理等			
低学年作成の児童	食に関する指導	3つのグループの食品を組み合わせて作ることをより、野菜のバランスがよい食事になることが分かる(徳・道)	給食の食品の組み合わせ方について考え、給食のバランスのよさを調べる(徳・徳)	丈夫な骨や歯を作る食べ物について考えよう(徳・道)	夏野菜の栄養について知ろう(徳・感)
	給食指導	楽しく食事しよう(徳・道)	給食の環境を清潔にしよう(社)	手をきれいに洗おう(徳)	バランスよく食べよう(徳・徳・道)
	学級活動	給食指導の仕方を考えよう(徳・道)		あなたの背ぐきは大丈夫(道)	夏休みの食生活(徳)
	児童会活動	献立紹介		給の集会 そめだし	
	学校行事等	身体測定 入学式 発表発表		食育月間 給の朝会	
家庭・地域との連携	献立例	赤飯(祝祭) 栗の花あえ	1年生帯(お茶ゼリー) たけのこご飯 しょうがご飯	ワッパフルト カツメニュー ガムガムサラダ	4年生帯(コーヒを使った料理) 3年生帯(夏野菜を使った料理)
	旬の食材	押しなご はっさく	さくらんぼ しょうが しょうゆ	さいか 使生 アスパラガス	さくらんぼ ピーマン とうもろこし
	地場産物の活用	ほろもろ 小松菜 わかば	小松菜 なす きゅうり たまご	小松菜 なす きゅうり たまご	たまご なす きゅうり たまご
	学校栽培の食材	栽培状況	栽培状況	栽培状況	栽培状況
食文化の伝承		栽培状況	栽培状況	栽培状況	栽培状況
家庭・地域との連携				食育月間 親と子の背みが まかレンジャー	

〈 〉内は食に関する指導の内容を示す 食事の重要性(重) 心身の健康(健) 食品を選択する能力(選) 感謝の心(感) 社会性(社) 食文化(文)

(2) 食育の視点を重視した体験活動について

本研究では、総合的な学習の時間を中心とした体験活動を通して食育のねらいに迫ろうとしている。したがって、各体験活動に取り組む際には、食育に関する視点を持つ必要がある。そこで、総合的な学習の時間の年間指導計画に、6つの食に関する指導の目標に沿った視点を明記し、体験活動にその視点を持って取り組めるようにした。こうすることで、さまざまな体験活動と食に関する指導との関わりも明確になり、子どもたちも自分たちが体験していることと食に関する事柄を関連付けることができるようになる。

第5学年の例(総合的な学習の時間「年間指導計画」)

全体の活動テーマ	もっと知ろうよ、ふるさと蘇陽南!	
学年の活動テーマ	知ろう・探ろう・伝えよう! ~地域のことを調べ、発信しよう~	
月	地域を知り、人とふれあおう(37時間)	分かったことをまとめよう(33時間)
	オリエンテーション	活動の概要・学年テーマについて
4月	苗の観察に行こう(イ1)	米作りについて調べよう(イ2) <選><文>
5月	茶摘みをしよう(イエ2) 稲の観察をしよう(イエ2)	水俣に学び環境について考えよう(イ4) まとめよう(ウエ2)
6月	田植えをしよう(イ2) <感><選> 稲の観察をしよう(イエ2) <文>	
7月	稲の観察をしよう(イエ1) <文> 田の草取りをしよう<感>	水の中の生き物を調べよう(イ3)
8月	蘇望苑訪問 火伏地藏祭参加	水の環境を守るための取組を考えよう(イ4) 水を守るために(エ3)
9月	稲の観察をしよう(イエ4) <感><文>	
10月	稲刈りをしよう(イ3) <感>	学校周辺の史跡を調べよう(イ6)
11月	脱穀をしよう(イ3) <感>	
12月	もち米料理をしよう(エ4) <社><健> 感謝の会を開こう(エオ5) <感><社>	
1月		米の料理を調べよう(イ3) <文><重>
2月	学習発表会に向けて(エ4) <重><感><文> クリーン作戦(イ2)	学習したことをまとめよう伝えよう(エカ6)
3月	保育園の子どもに学校案内をしよう(イエ3)	
人材活用	馬見原東部老人会(古川さん・甲斐さん)、食生活改善員グループ 山都町役場住民環境課、保護者、祖父母	
関連	国語「敬語を適切に使おう」「森林のおくりもの」理科「植物の発芽、成長」 社会「これからの食糧生産とわたしたち」「わたしたちの生活と環境」 学活「水俣病って何だろう」「給食について考えよう」道徳「正月料理」	

() 内の記号は評価の観点、数字は時数を表す。

ア：課題を見つける力 イ：情報を集める力 ウ：集めた情報を整理・分析・考察する力
エ：表現する力 オ：コミュニケーション能力 カ：自己の生き方を考える力

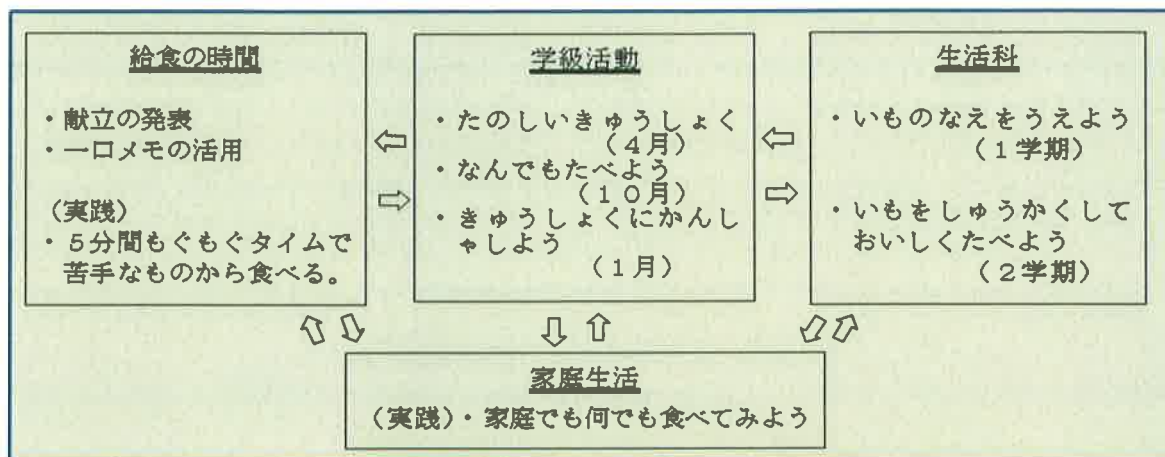
< > 内は食に関する指導の内容を示す 食の重要性<重> 心身の健康<健> 食品を選択する能力<選> 感謝の心<感> 社会性<社> 食文化<文>

2 教科等における食に関する指導の充実について

授業研究部を中心として、教科等で仮説の検証を行い、食育を推進するための取組を進めた。

(1) 教科等における食育の視点を明確にした取組

食に関する指導の年間指導計画に基づいて、各教科等の授業の中で食に関する指導が計画的、継続的に行われるように、単元・題材と関わりの深い食に関する指導を明記するようにした。各学習や指導の関わりを明確にすることにより、様々な指導と関わりの深い既習内容を想起させることができる。そうすることで、学習・指導内容の理解はより深いものとなり、児童の行動化にもつなげやすいと考えた。



また研究授業の際には指導案の内容を要約した「授業の主張点」を作成するようにした。右表1は、単元の目標、仮説の実証、児童に身につけさせたい力、本時の見どころなどをまとめたものである。

指導者が本時の授業でもっとも主張したいところを明らかにし、授業研究会での論議のポイントを絞ることをねらって取り組んだ。これにより仮説との関わりが明確になり、その学習において、重点とする「食育」の視点もはっきりさせることができた。

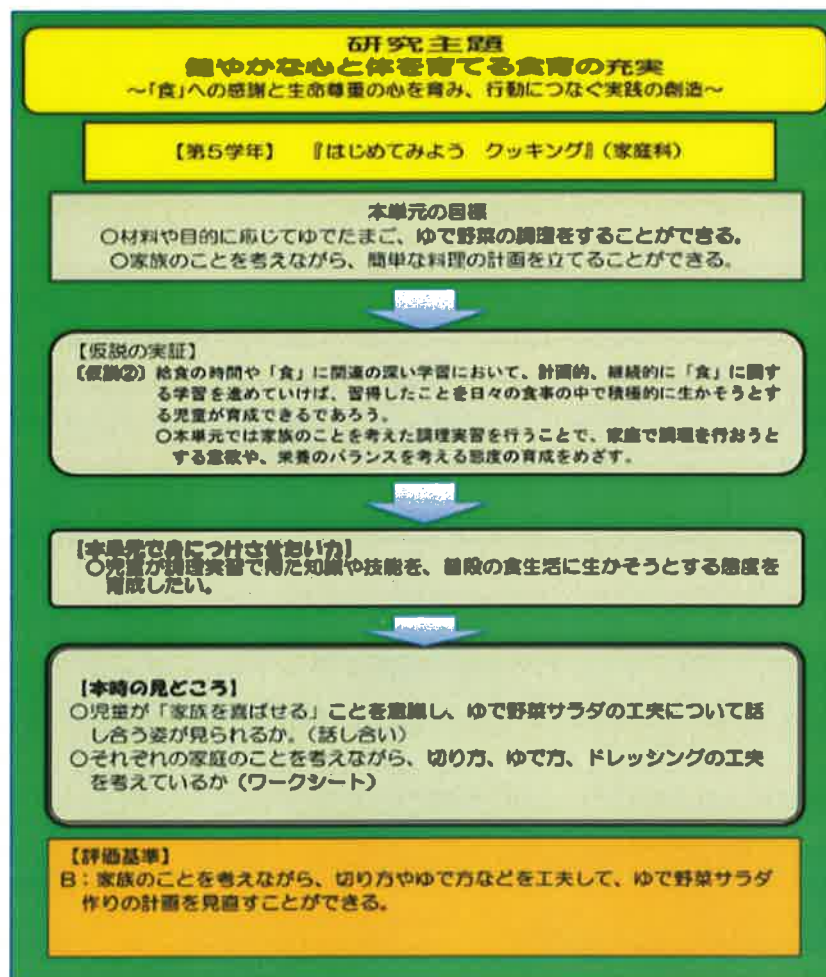


表1 授業の主張点

第5学年 家庭科「はじめてみようクッキング～家族が喜ぶゆで野菜サラダ作り～」

本学習における食育の視点、身につけさせたい力

〈食に関する指導の目標〉

- 食品を選択する能力：食品の安全、衛生について考えることができる。
- 感謝の心：生産者や自然の恵みに感謝し、残さず食べようとする。

〈身につけさせたい力〉

調理実習で得た知識や技能を、普段の食生活に生かそうとする実践力。

仮説との関わり

本単元では、家族のことを考えた調理実習を行うことで、家庭で調理を行おうとする意欲や、食事の栄養バランスを考える態度の育成をめざす。←仮説②

学習活動

授業の流れと「食育の視点」に関わる児童の反応

目標

○切り方やゆで方を工夫しながら、家族が喜ぶゆで野菜サラダ作りの計画を見直すことができる。

つかむ
本時のめあてを知る

○家族を喜ばせるため、どのような工夫をするか考える。



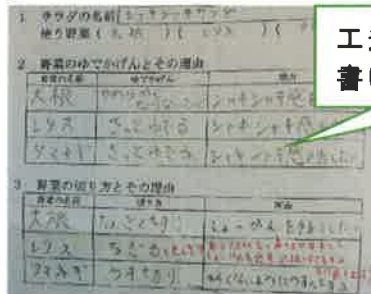
家族が喜ぶゆで野菜サラダにするためには、どんな工夫をしたらいいかな？

切り方やゆで方を工夫すると、嫌いなものも食べやすくなり、家族が喜ぶサラダになります。



さぐる
ふかめる
自分のゆで野菜サラダ作りの計画を見直す。

○自分の計画の、ゆで方や切り方を見直し、意見交流をする。



工夫したところは赤で書いておこう。

なるほど。これなら家族みんなが喜んで食べてくれそうだね。



○栄養教諭の話聞き、ゆで野菜サラダ作りへの意欲を高める。



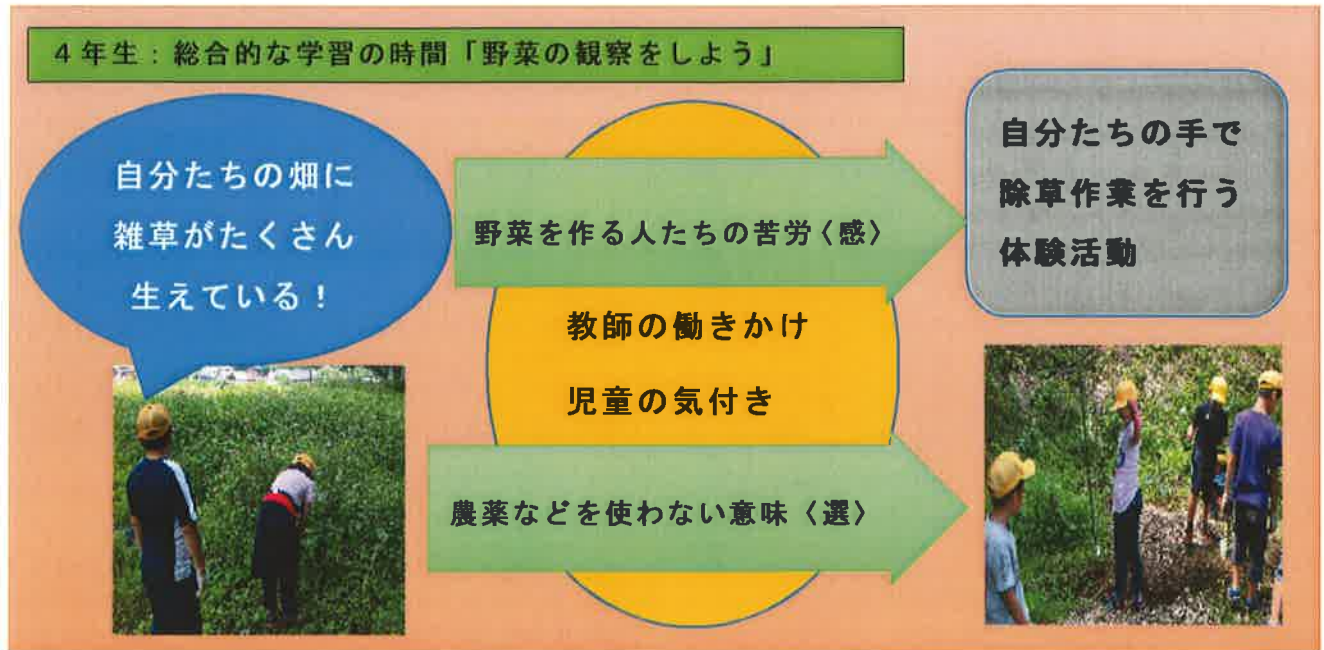
給食でも、いろんな野菜をおいしく、たくさん食べられるように、ゆで方、切り方を工夫しています。

まどめ
次時への見通しをもつ

おいしいゆで野菜サラダを作って、家族に食べてもらおう！

(2) 体験活動と食育との関わりを重視した取組

食に関する指導の年間指導計画及び総合的な学習の時間の年間指導計画に記された食育の視点を重視した各体験活動を行った。特に総合的な学習の時間においては、課題設定、活動計画、体験活動、活動のまとめなど各段階において食育の視点を持って取り組むことで、様々な知識とともに、「食」に対する意識が高まっていくものと考えた。



また、体験活動によって収穫された野菜や米などは、給食の食材として利用した。給食に、自分たちが育てた作物が使われることにより、児童は体験活動と「食」とのつながりを更に強く意識することができた。給食委員会による校内放送で、自分たちが育てた食材について紹介されることで、児童は栽培活動に更に意欲的に取り組むようになった。



本学習における食育の視点、身につけさせたい力

〈食に関する指導の目標〉

- 感謝の心：自然の恵みに感謝して食べることができる。
- 食文化：地域の特産物に興味を持ち、日常の食事と関連付けて考えることができる。

〈身につけさせたい力〉

調べ学習・聞き取り・栽培・調理などの体験を通して、大豆の栽培の仕方、栄養、歴史、加工の仕方、自分のくらしとのつながりを知り、「食」への関心を持つ。

仮説との関わり

子どもたちの疑問・調べたいことを中心に、五感を使った授業を創ることで、「食」への関心や感謝の気持ちを高める。←仮説1

学習活動

授業の流れと「食育の視点」に関わる児童の育成

目標：大豆は様々なものに形を変えて（加工されて）食べられていることを知り、その大豆を栽培することへの意欲を持つことができる。

つかむ
本時のめあてを知る

大豆について知っていることを出し合おう。

児童が食べた豆腐



○豆腐を食べて思ったことや、大豆の加工品について出し合う。



ハムやウィンナーは肉から、ちくわやかまぼこは魚からできているんだね。



どんな味かな。



とうふは、大豆からできているんだよね。大豆の味がするね。

さぐる
ひかめる
大豆について知っていること、知らないことを整理し班ごとに調べたいことを考える。

○大豆について知っていることを発表し、もっと調べたいことを考える。

うわあ、ちっちゃいね。



みそが
できるま
でを調べたいね。



どんなにおいかな。

ばあちゃんたちに大豆料理のことを聞きたいね。



まどめ
次時への見通しをもつ。

これから班ごとに、大豆について調べましょう。
菅尾老人会の人たちと一緒に大豆を育てましょう。

(3) 日常的な指導との関わりを重視した取組

給食の時間における食に関する指導や、日々行われるマナーに関する指導などの中から、特に重点的に行うべき指導に関しては、1単位時間を使い授業を実施した。給食中や日常的な指導では伝えきれないところを考えていくことで、栄養面やマナー一面の知識を深めることができた。

実践事例

第2学年 学級活動「よくかんでたべよう」

本学習における食育の視点、身につけさせたい力

〈食に関する指導の目標〉

- 食事の重要性：人間が生きていく上で食事は欠かすことができないこと。
- 心身の健康：よくかんで食べることが必要であること。
- 感謝の心：生産者や自然の恵みに感謝し、残さず食べようとする事。

〈身につけさせたい力〉

食べものをよくかめば、良いことがたくさんあることを理解し、最初の一口・二口くらいは30回かんで飲み込もうという意欲と実践力。

仮説との関わり

よくかむことは、消化を助けたり、あごを強くしたりして健やかな体づくりにつながることを理解し、日々の食事の中で積極的に生かそうとする児童を育成する。→仮説2

学習活動

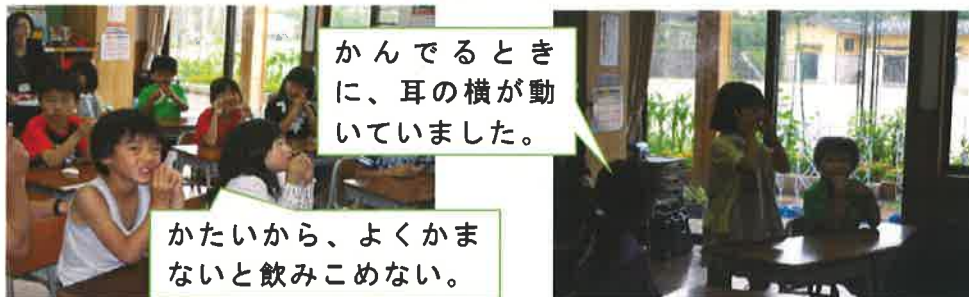
授業の流れと「食育の視点」に関わる児童の育成

つかお
本時のめ
あてを知
る

目標：よくかんで食べるとたくさんのいいことがあると分かり、食べものをゆっくりよくかんで食べようとする意識を持つことができる。

よくかんで食べると、どんないいことがあるのだろう。

- ゼリーとするめを食べ比べ、かむ回数や口の中の様子を発表する。



ひかめる
試食して
よくかむ
ことを体
感する。

- 養護教諭の、専門的な立場からの話をしっかり聞く。



ひろげる
分かった
ことや、
感想を書
く。

- 1週間かみかみがんばりカードを配り、給食の時間にかめたら色をぬるようにする。

- ・わたしは、はがうらから生えてきていやだから、よくかんであごをつよくしたいです。
- ・わたしはおなかがいなくなるからこんどからよくかんでたべたいと思います。

3 給食に関する取組の充実

(1) 給食の時間における取組の工夫

①給食の時間における食に関する指導

毎日、給食係等が献立を発表し、担任がその日の献立メッセージを読んでいる。週2回を基本に、メッセージの内容を膨らませて児童に話をするという活動をしてきた。学級によっては、献立を3つの食品群に分けて掲示しながら、食に関する指導を行った学級もあった。短い時間の中で指導の充実を図った。



食に関する指導の時間(1年)

②もぐもぐタイムの実施

給食終了10分前に、5分間の「もぐもぐタイム(話をせずに食べる時間)」を設定し、給食時間内に食べ終わるための指導の一環として取り組んだ。放送で音楽を流し、意識付けを図った。児童は音楽が流れると黙って食べ、時間内に食べようという意欲が見られた。

③ランチルームの活用

異学年との交流を目的に、ランチルームでの給食を行っている。ここでの給食はオリジナル性に富んでいる。例えば、全校児童が集まっての「お楽しみ給食」、2～3の学年が集まっての「交流給食」などを実施したことで、児童はランチルームでの給食を心待ちにするようになった。今後も、ランチルームを全体での食に関する指導の場として活用していく。

毎学期、低・中・高学年に分かれて、ランチルームで、清和小学校の橋本栄養教諭による食に関する指導を実施してきた。『親子給食試食会』では、保護者向けを含めた内容でのお話をお願いした。専門的な立場からの内容で、児童にとっても保護者にとっても食に関する認識を深めるものとなった。



保護者対象、栄養教諭による食に関する指導



親子給食試食会

- ・家では調理時、普通に洗って切って火を入れていたが、給食作りは衛生管理が思った以上に驚きました。ここまでして頂いているので、もう少し家庭でも気を配っていきたいと思いました。
- ・山都町の自然豊かな所でも、安全な食材について考えていただいている事にびっくりし、親としてありがたいと思いました。
- ・普段はあまり好きではない食べ物でも、学校で食べると美味しい様子で、ぱくぱくと食べる姿が印象的でした。
～「親子給食試食会」の参加保護者の感想より～

(2) 環境づくりの工夫

①給食食材の産地の紹介

食の安全や地産地消の観点から、毎月、調理員の先生が食材の提供先を調べ、給食便りに掲載している。児童にも伝えるため、献立と一緒に食材の産地も掲示した。



掲示コーナー



食育コーナー

②食育コーナー

ランチルーム内や入り口、昇降口などに食育コーナーを設けた。給食目標や献立、給食ニュースやクイズなど、児童が立ち止まって読んで楽しむように工夫した。

③児童会との連携

食育コーナーに給食の月目標を大きく掲示して目標の意識化を図った。各教室には、生活目標と食の月目標を書いた「今月の生活目標」を掲示した。さらに、生活目標と食の目標を学級に提示し、自分たちで学級の目標を立てることで意識化を図った。



学級に掲示された月目標

④給食時計の作成

給食の時間を意識し、見通しをもつために、各教室に給食の準備、食事、後片付けをする時間を示す給食時計を掲げた。本校の給食時間は、準備が15分間、食事が20分間、片付けが5分間で計40分間としている。給食時計は児童に分かりやすいように色分けをしてそれぞれの時間を掲示した。準備や食事の残り時間などの見通しが立てられ、児童が自分で考えて行動しようとしていた。準備に時間のかかる低学年でも、何とか時間に間に合わせようという態度が見られるようになった。

⑤保健室コーナーの工夫

おやつを取り方やカロリーの摂取量、噛むことの良さなど、保健室前の掲示板は、食に関する指導に通じるものが多く、児童もよく見ていた。健康な生活が送れるように、「医食同源」という視点から、養護教諭と内容の検討を図っている。



保健室コーナー

(3) 委員会活動を生かした取組の工夫

①ランチルームの会場作り

交流給食や試食会などでランチルームを使用する時は給食委員会が朝から集まり、席を作ったり名札を置いたりして場作りをしている。回を重ねるごとにスムーズに準備できるようになってきた。集会時の司会をしたりランチルームの環境を整えたりして、会の充実を図っていこうという意識が高まった。



交流給食の準備の様子

②給食当番服装チェック

月の給食目標「給食の準備を清潔にしよう」に合わせて、マスク調べを計画し実施した。また、ランチルームに入る前に、給食当番の最後の身だしなみチェックを委員会が行い整えさせた。身だしなみチェックは、常時活動として行うようになり、給食当番の自覚を促している。



服装チェックをする給食委員

③その他の常時活動

服装チェック以外の常時活動としては、献立の食品カードの掲示、給食後の片付け点検、献立の放送を行っている。毎週月曜日の朝に集合し、その週の委員会の活動内容について確認し、交流給食や試食会等がある週は、早めに計画を立てて準備をしている。毎日の献立の放送をする際に、マイクの前で上手に言えるように、大きな声を出して読む練習もしている。給食の食器等の最終返却は午後1時半としているが、その時刻に返却ができてない学級を点検して返却を呼びかけている。食器の入れ方や箸の入れ方についても、種類別に揃っているか、食器に食べ残しがないかを点検し、片付けが悪いときには、集会の場や校内放送で呼びかけている。



集会の様子

4 家庭・地域との連携について

(1) 老人会との連携

各学年の栽培活動では、地域の老人会や地域の方々に協力していただいている。栽培した野菜を利用した料理教室を開催し、老人会や地域の方々に調理法等を教えていただきながら児童と一緒に料理を作った。その後の会食で一緒に食事をする時間を設け、交流を図ってきた。また、3年の大豆、5年の餅米、6年の小豆を使い3学年合同で、きな粉餅やいちご大福作りをした。

1年 からいも作り (滝上老人会)



からいも苗植え(5月)



からいも収穫(11月)



いきなりだんご作り(12月)

2年 小豆作り (馬見原中央老人会)



小豆植え(7月)



小豆収穫(11月)



ぜんざい作り(12月)

3年 大豆作り (菅尾老人会)



大豆植え(5月)



大豆収穫(11月)



みそ作り(12月)

4年 からいも作り (大野老人会)



からいも苗植え(5月)



タマネギの収穫(7月)



いきなり団子作り(1月)

5年 もち米作り (馬見原東部老人クラブ)



田植え(5月)



稲刈り(10月)



赤飯作り(12月)

6年 小豆作り (長崎老人クラブ)



小豆植え(7月)



小豆収穫(11月)



団子作り(12月)

(2) PTAとの連携

① 「親の学び」プログラム『ニコニコ、パクパク。我が家の食事!』

食育を推進していくうえで、家庭(保護者)、地域との連携は重要な柱の1つである。食事を含めた家庭生活環境と学力との関連も明らかになっている。

平成25年度は、町PTA連絡協議会の栗山由美子氏を招き「親の学び」プログラムを実施した。「親の学び」プログラムは、家庭で大切にしたいことを参加者同士で学び合える参加体験型の学習プログラムである。家庭の食事の見直しや親子のきずな作りにつながる充実した研修になった。家庭は教育の原点であることを再認識するとともに「親としての学び」を主体的に学習することができた。



「親の学び」プログラム

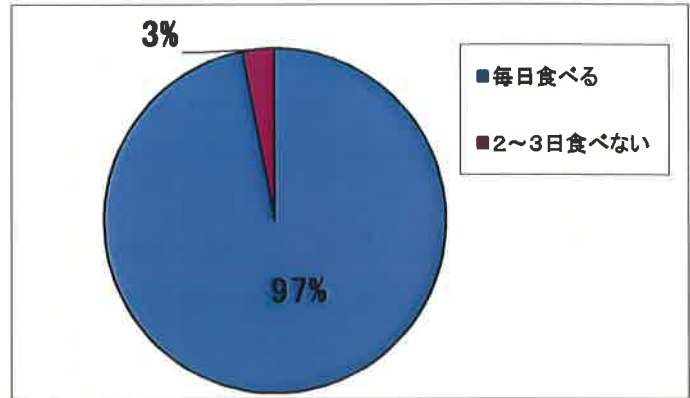
② 食を通しての外国文化等の理解

保護者の中に外国出身の方がおられることで、本場の料理を丁寧に教えていただいた。モンゴル料理は「ボーズ」という餃子に似たものでマトンを使い、中国料理は豚肉を使った水餃子である。皮作りから教えていただき具材の中に詰める所は、国は違っても似たような食べ物があることを知ることができた。

Ⅲ 研究のまとめ

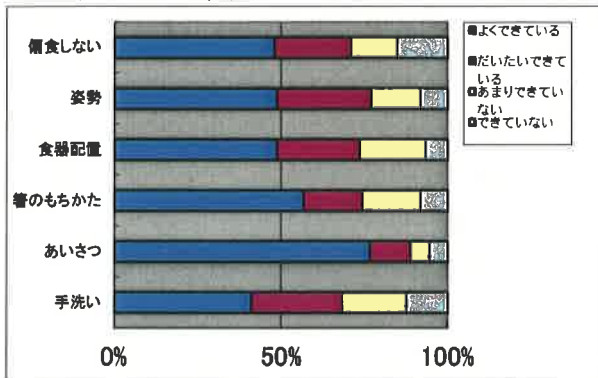
1 実態調査から

昨年度と今年度の児童へのアンケート結果から、朝食摂取の状況については、改善が見られた。ほとんどの児童が朝食を「毎日食べる」と答えており、朝食に対する意識の高まりが感じられた。「2～3日食べない」と答えた児童は、その理由として、食欲のなさを挙げている。今後の取組みで、食事の内容も含め、更なる意識の高まりを期待したい。

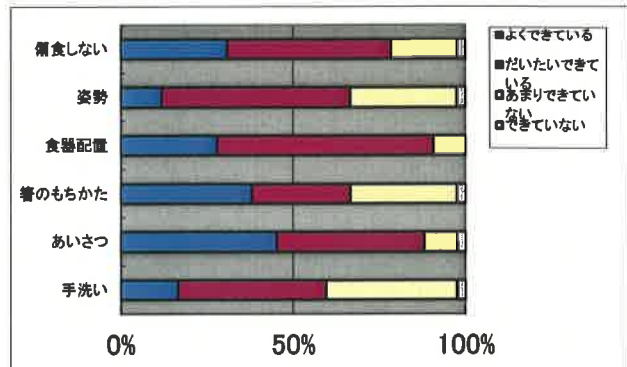


H26 児童の朝食摂取の状況

また、食事のマナーに関しては、あまり変化は見られなかった。しかし給食中に姿勢などについて注意しあう姿が見られ、自分のマナーに対する意識は高まりつつあるといえる。家庭におけるマナー面の意識については、多くの項目について意識の高まりが見られ、これは家庭への啓発によるものと考えられる。

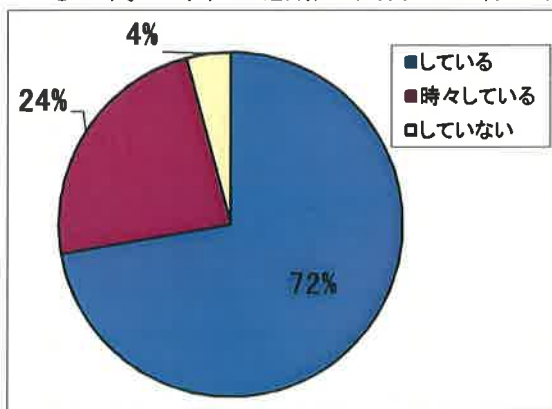


H26 食事のマナーに関する意識（児童）

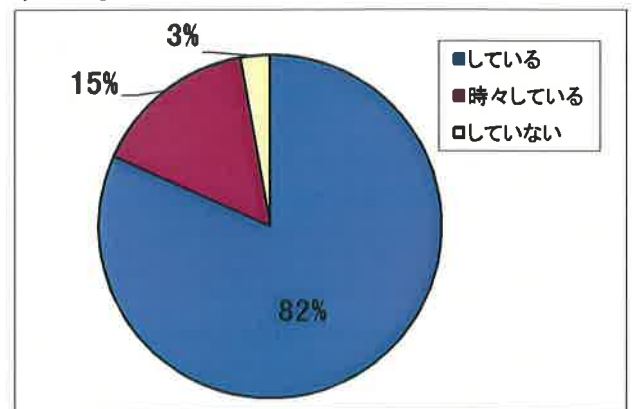


H26 食事のマナーに関する意識（保護者）

家庭での食事のときに「いただきます」、「ごちそうさま」など食事のあいさつをしているかという設問に対しては、毎日あいさつをする児童が多くなった。マナー面の向上とともに食に対する感謝の気持ちが育まれた結果と考えられる。

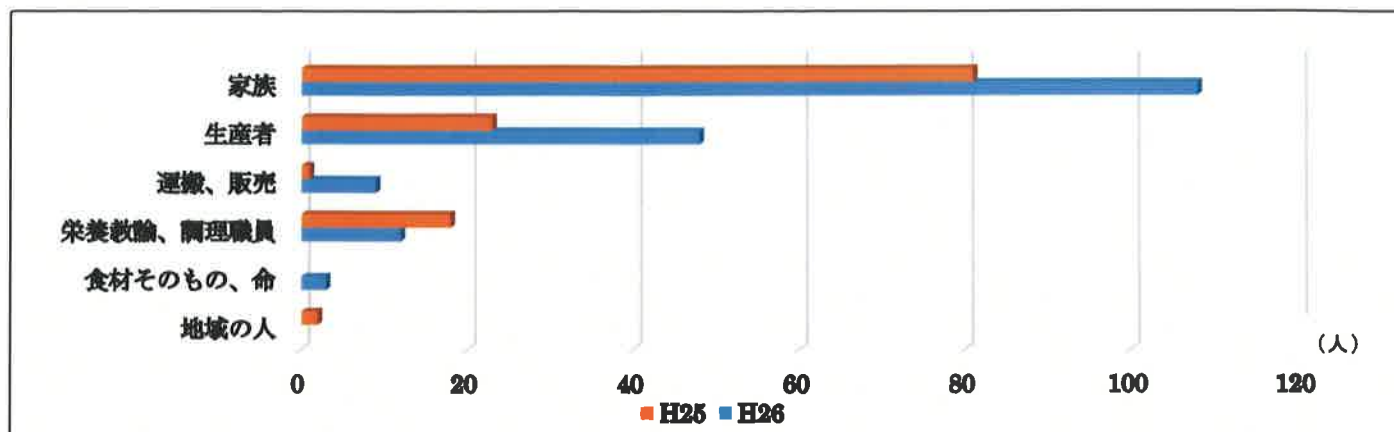


H25 家庭での食事であいさつをしているか



H26 家庭での食事であいさつをしているか

児童の食に対する感謝の気持ちに関しては、家族や栄養教諭、調理職員以外にも、食に関わっている方が多くいることを認識し、その方々に感謝の気持ちを持てるようになってきた。感謝の気持ちが広がりを見せてきたことは、取組の成果であると考えられる。



食事ができるのは誰のおかげか (H25 と H26 の比較)

2 成果と課題

(1) 成果

① 仮説1について

- 教科等における取組みによって、感謝の気持ちが広がりを見せるなど、子どもたちの「食」に対する関心は高まったといえる。特に野菜の栽培活動を体験することにより、食材を生産する苦勞について考えたことは、大変有意義であった。普段は食べない苦手な食材でも、自分で育てたとなれば、おいしく食べることができたという経験により、給食の残食など少なくなった。生産者や調理をしてくださる方に対する感謝の気持ちは以前より強くなったといえる。

② 仮説2について

- 給食の時間における食に関する指導の充実により、マナー面での向上が見られた。特に箸の持ち方や給食当番時の身支度などは以前と比べ改善された。
- 栄養教諭が授業の中で栄養のバランス等について話をしたり、定期的に、給食時間の食に関する指導を行ったりしたことにより、児童の「食」に関する知識、関心は高まった。保護者に対しても「食」に関する講話の機会を設けたことで、それぞれの家庭でも「食」に関する意識が高くなった。
- 児童会及び給食委員会の活性化により、食に関する指導を行う環境が整ってきた。

③ 総括

- 前述のことから仮説1及び仮説2の検証により、児童の「食」への感謝と生命尊重の心は育まれつつあるといえる。また、教科等や食に関する指導などで得た知識や感謝の気持ちの高まりは、食事のマナー向上や食べ残しの減少、朝食の一品を自分で作る等の児童の姿につながっているものと考えられる。

(2) 課題

- 学んだことを主体的に学校生活や自分のくらしにつないで行動したり、自ら課題を見つけて問題解決に向けて行動する力を育てることについては、さらに職員の共通理解を図りながら、研究、実践を進める必要がある。
- 「食」を通して、ふるさとを愛する心を育てることについては、栽培活動を通して地域との連携ができたので、さらに郷土料理作りなどで交流を深め、ふるさとを見つめ、愛することにつなぎたい。また、地域が有機農業や減農薬の農業に取り組み、安心、安全な「食」に向き合うふるさとであることに、さらに気付かせ、命を守る生き方を考えさせたい。

おわりに

熊本県教育委員会より「学校給食・食育推進校」の研究指定を受け、「健やかな心と体を育てる食育の充実」を主題に研究を進めてきました。研究を推進するにあたっては、本校の特色を生かすため、地元の特色や地域人材の活用（人的環境の整備）を各地の老人会を中心に推進していきました。特に地域の方々との連携・協働の実践を積み重ねてきたことは、栽培活動と同時にその方々とのふれあいが生まれ、地域等との交流を推進していく上で効果的な方策であったと考えています。人間関係の希薄化が顕著になっている現代社会において、豊かな人間関係づくりや体験活動の推進はこれからの社会へ歩みを進める子どもたちにとって極めて意義深いことだと考えます。また、家庭との連携に関しても、全国学力・学習状況調査の結果からも「学力」と「家庭生活習慣」の相関性が明らかになっています。家庭での食習慣は、学力向上を始め、様々な場面で子どもたちの力を発揮させる基盤にもなり、「生きる力」につながるものと考えます。

学力の向上は職員の授業力に負うところが大きいのですが、その先には子どもたち一人一人の「分かった。楽しかった。」喜びがあり、それはこれからずっと続いていくであろう『学ぶ意欲』へとつながっていくと考えます。そのことも常に心に置き、今後も研究に邁進していきたいと思えます。

最後に、本校の研究推進や授業改善に向けてご支援・ご協力いただいた、熊本県教育委員会、公益財団法人熊本県学校給食会及び山都町教育委員会、上益城教育事務所を始め多くの関係の皆様へ深く感謝の意を表し、結びといたします。

山都町立蘇陽南小学校
教頭 田中 壮介

参考文献

- 「学習指導要領総則」（文部科学省）
- 「食に関する指導の手引き—第一次改訂版—」（文部科学省）
- 食育実践マニュアル（熊本県教育委員会）
- 平成18年度食育推進事業「食に関する実態調査」結果・「体験活動研究推進校」実践 報告書（熊本県教育委員会）

平成26年度研究同人

藤吉 勇治	田中 壮介	八田 卓二	榎林るみ子	坂口 宏義	山下 憲司
松本 賢裕	田中 宏和	高崎千佳子	大林 由佳	木元 博之	江藤美代子
肥高 幸子	川上奈緒美	竹下 玲	村上はつめ	藤澤 和美	大塚さゆり
橋本 理恵					

平成25年度研究同人

藤吉 勇治	田中 壮介	榎林るみ子	坂口 宏義	山下 憲司	松本 賢裕
田中 宏和	大林 由佳	木元 博之	渡邊 香織	若水 智代	肥高 幸子
西山 雄哉	山本志美江	村上はつめ	菊池 昭子	橋本 理恵	

山都町立蘇陽南小学校

